



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考える」

### 聖書(ローマ書3章28節)

牧師 河合裕志

これはローマ書の中で中心となる言葉とされているもの。パウロの一番にいたいことが的確に言い表されている。

先ず「人が義とされる」とはどういうこと？これは元々法廷用語で裁判官があなたは正しいと宣言されることを言う。あなたは無罪ですよと告げられること。被告人にとってはこんなに嬉しいことはない。それは天にもものぼるような心地。よく裁判所から「無罪」とか「勝訴」と大書したものを持って走り出て来る人がありこれを支持者が見て喜ぶといった光景が見られる。それは大きな喜びに違いない。

ところで今パウロは人が神の前で義とされることを問題にしている。これについて従来のパウロはそれは「律法の行いによる」と考えていた。神が与えた律法に落度なく従い守る、そのことにより神より義と認められる、正しい者として受入れられると信じて疑わず律法の実行に励んだ。彼は熱心なユダヤ教徒としてその先頭を走っていた。

しかし結果はどうだった？「律法によっては、罪の自覚しか生じない」ということだった(3章20節)。律法は要するに神と人への愛の実行を求めるものだけれどこれを完全には遂行できない自分を見出して途

方に暮れる他なかった。己の罪、限界を知り絶望に沈んだ。

こんなパウロに上から示されたのが「信仰による義」というものだった。イエス・キリストを信じる信仰によって義とされる、という全く思いもよらない道だった。「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました」(3章25節)。キリストの血、その十字架は私の罪を償う供え物と信じ受入れる者、その者を神は無罪と認める、その者の罪を赦すというものだった。

それから1500年後、ドイツのマルチン・ルターも同じように苦しんでいた。そんな彼がローマ書を研究しパウロのこの節に至った時、彼に光が射した。彼は愛する同胞にこの句を次のようにドイツ語に訳した。「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰のみによる」。「信仰のみ」と強調。これは意識だけれどパウロの真意をよくくみとっている。今日の私達もこれに続く。私の深い罪が赦されるためにキリストは犠牲となって下さった。この信仰に立ち、立ち続けて行こう。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時